

令和 7 年度 地域共創型学生プロジェクト エントリーシート

エントリーチーム名	
フリガナ 代表者氏名	
所属・学年	() 学部・研究科 () 学科・課程 () 年 学籍番号：
連絡先	メール： 電 話：
プロジェクト名	
実施するプロジェクト の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組むべき地域課題 ・ オリジナリティ、面白さ ・ プロジェクトの実施計画 ・ 期待するプロジェクトの成果・効果
参加メンバー氏名・所 属・学年（代表者以 外）	・
	・
	・
	・
	・
	・
	・
	・
	・
サポート教職員※2 の 氏名・所属	氏名： 所属：() 学部 () 学科・課程 プロジェクトが島外へ移動を伴う際の引率(可 ・ 不可)

※1 必要に応じて、回答枠の拡張や行の挿入（電子ファイルの場合）、別紙への記入等を行ってください。別紙の場合、本エントリーシートと併せてご提出ください。

※2 「サポート教職員」とは、応募者が申請するプロジェクトへのアドバイス等を行う教員（琉球大学所属）のことをいいます。サポート教職員が実際にプロジェクトに関わるか否かは問いません。島外への移動において、サポート教職員が引率不可の場合、地域連携推進機構の教員が引率を行います。本エントリーシート提出時点で該当者が未決定の場合は空欄で構いません。（プロジェクト実施までには設定していただきます）

令和7年度 地域共創型学生プロジェクト エントリーシート ～記載例～

エントリーチーム名	チームちゅらプロ
フリガナ 代表者氏名	リュウダイ ハコ 琉大 花子
所属・学年・学籍番号	(○○○○) 学部 (○○○○○) 学科・課程 (○) 年 学籍番号：123456Z
連絡先	メール： 電 話：
プロジェクト名	○○○プロジェクト
実施するプロジェクト の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組むべき地域課題 (このプロジェクトを実施することによってどのように地域に貢献しますか) ・オリジナリティ、面白さ (これまでに実施されてきたアイデアとどう違って、どこが面白いのか) ・プロジェクトの実施計画 (プロジェクトの実施期間、担当者、(4)の目標を達成するための具体的な行動計画を教えてください) ・期待するプロジェクトの成果・効果 (このプロジェクトを実施すると地域にとってどんないいことがありますか)
参加メンバー氏名・所属・学年・学籍番号 (代表者以外)	・●● ●● (○○○○学部○○○○○学科・○年・123456A)
	・●● ●● (○○○○学部○○○○○学科・○年・223456B)
	・●● ●● (○○○○学部○○○○○学科・○年・323456C)
	・●● ●● (○○○○学部○○○○○学科・○年・423456D)
	・
	・
サポート教員※2の 氏名・所属	氏名： 所属：() 学部 () 学科・課程 プロジェクトが島外へ移動を伴う際の引率(可 ・ 不可)

※1 必要に応じて、回答枠の拡張や行の挿入（電子ファイルの場合）、別紙への記入等を行ってください。別紙の場合、本エントリーシートと併せてご提出ください。

※2 「サポート教職員」とは、応募者が申請するプロジェクトへのアドバイス等を行う教員（琉球大学所属）のことをいいます。サポート教職員が実際にプロジェクトに関わるか否かは問いません。島外への移動において、サポート教職員が引率不可の場合、地域連携推進機構の教員が引率を行います。本エントリーシート提出時点で該当者が未決定の場合は空欄で構いません。（プロジェクト実施までには設定していただきます）

地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）採択実施一覧

令和元年度

	プロジェクト名	メンバー構成	プロジェクト概要
1	地域生産者に学ぶハーブ生産とハーブ関連商品開発	農学研究科 : 2名 農学部 : 4名	沖縄県南城市はハーブの生産地として地域農業の振興を図っていることを農学部の講義の中で耳にした。今回のプロジェクトでは、ハーブと島やさいの栽培を通して、沖縄県の農業振興に関わる活動をしている岸本ファームの協力を得て実施する。具体的には、岸本ファームが開催する農作業体験などのイベントを学生が手伝い、農業の魅力を広く伝えることを経験する

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から未実施となっています。

令和3年度

	プロジェクト名	メンバー構成	プロジェクト概要
1	Quality of Tourism (QOT) プロジェクト～量から質へ コロナ禍の観光産業をリブする～	国際地域創造学部 : 10名	沖縄観光の量から質への転換について、沖縄観光の分析、観光業者へのヒアリング調査、学生と観光業者のワークショップを通して、レジリエンス（回復力）が高い持続可能な沖縄観光について考察する。
2	感染予防ハーブ伝承知アーカイブプロジェクト	国際地域創造学部 : 1名 農学部 : 8名	感染予防ハーブの研究を題材に、農業体験やワークショップの開催、ホームページ制作を通して、感染症に対するレジリエンスの向上及び農業従事者の高齢化、担い手不足といった地域課題の解決に取り組む。
3	あつまれグローバル人材！ひらけ留学のトビラ！～沖縄市・うるま市のPR動画制作×魅力発信～	人文社会学部 : 1名 国際地域創造学部 : 1名	留学に興味のある高校生や大学生と沖縄市・うるま市の地域探検を行い、探検の際に撮影した写真や動画を使用して市のPR動画制作等を行う。こうした活動を通して、コロナ禍/アフターコロナ時代におけるマイクロツーリズムの推進及び留学生が留学先で自文化を発信できる土台作りにつなげる。
4	文化と伝統を次世代に繋ぐ with コロナ	国際地域創造学部 : 4名	紙芝居やカードゲームを通して、小学生に親しみやすく、教える側と教わる側両方に伝統芸能の知識と興味を持ってもらうことを目的に活動を行う。
5	かるたで学ぼう！やんばるの自然	国際地域創造学部 : 7名	やんばる3村地域の動植物の魅力を詰め込んだ「やんばるカルタ」を作成し、カルタを使用した子供向けイベントの開催を通して、「楽しく学ぶ」をモットーに、子どもたちに自然や動植物の魅力を伝え、自然に興味を持つための機会を創出する。
6	大度浜海岸ハンドブックを作ろう！	理学部 : 3名	地元の海（大度浜海岸）に誇りを持ち、環境を守る意義を学んでもらうため、専門知識を持った琉球大学生のスキルを生かし、作成したハンドブックを公民館や教育機関に配布することにより、地域に環境に関する意識を根付かせる。

令和4年度

	プロジェクト名	メンバー構成	プロジェクト概要
1	うちなーいも生産向上プロジェクト	農学研究科：1名 農学部：9名	沖縄の芋生産における課題や将来性についてセミナー等で情報を整理するとともに、実際に農学部の圃場等でサツマイモを栽培し、収穫体験や収穫した芋を使ったワークショップなどを実施する。
2	服交換リユースイベント『Thanks To Clothes』	国際地域創造学部：9名	沖縄における循環型社会の実現に向けて、リユースの促進の観点から服交換イベントを実施するとともに、普及啓発等のためSNSによる情報発信を行う。
3	島に大学ちくいぶさ	理学部：1名 国際地域創造学部：1名 人文社会学部：1名	離島における大学設置の可能性について県外や海外の事例研究を通じて整理する。整理された情報や関係者への意向調査等をもとに、奄美大島において住民や高校生等を対象としたワークショップを実施し、離島における大学設置の可能性を探る。

令和5年度

	プロジェクト名	メンバー構成	プロジェクト概要
1	バリアフリーマップを発展させ隊プロジェクト in 久米島	人文社会学部：4名	多様な観光客が旅行計画を立てやすいようユニバーサルツーリズムを整える。離島ではバリアフリーに関して取組があまり見られないことから、今回は、久米島観光促進を目的にバリアフリーマップアプリの情報共有・更新、認知拡大をすることで、高齢者や障害者等の利用促進を図る。
2	超〜うメ〜琉大産ヤギベーコンとヤギハムの製造プロジェクト	農学部：4名	沖縄県にはヤギ食文化があるが、ヤギ肉は独特のにおいが強く好みがかかれやすい。そのため若者や県外の人にはなじみがなく嫌煙されやすいが、ヤギ肉は高タンパク低脂肪であり、他の家畜の肉に比べ優れている面もある。食べやすいヤギ肉加工品を作り、ヤギ食文化の衰退を防ぐことを目標とする。
3	地域をつなごう！～沖縄軽便鉄道～	人文社会学部：8名	与那原町には、沖縄県内で唯一、鉄道の歴史が学べる「軽便与那原駅舎」（歴史博物館）があるが県内に軽便鉄道があったという歴史を知っている県民は少ないことから、当該施設の知名度を上げ、②来館者を増やして鉄道の歴史を知ってもらい、③与那原町の経済の活性化に少しでも貢献したい。
4	子どもの未来を紡ぐ体験プロジェクト	国際地域創造学部：2名 人文社会学部：1名	県内の子どもの体験格差が大きいことに注目し、地元企業の見学イベントを実施して、子どもたちが働くことに対する理解を深め、学習意欲や就業意欲を向上させる機会を創出する。
5	美しいビーチを守るプロジェクト	理学部：2名 理工学研究科：2名	沖縄の砂浜にあるサンゴや砂（星砂）などは許可なく持ち帰ってはいけないが、観光客のみでなく、地元の人にもあまり知られていないという問題点がある。ビーチの砂のほとんどが生物由来であることやそれらの生き物を知ってもらい、持続可能な開発目標（SDGs）の・地球環境を守ろう・質の高い教育をみんなに・海の豊かさを守ろうなどに関わるよう教育普及活動を行いたい。

6	うちなーんちゅと自然を繋ぐプロジェクト	理工学研究科：2名 理学部：1名	沖縄は貴重な自然が身近にあるのにも関わらず、海で泳ぐ、生物観察をする等、自然と積極的に関わる子どもが少ないと思われる。野外観察会等イベントを通じて自然の価値を正しく理解し、自然と人間社会の共存について考える機会を提供し、地元の自然に興味を持ち価値を理解する人材の育成を図りたい。
---	---------------------	---------------------	---

令和6年度

	プロジェクト名	メンバー構成	プロジェクト概要
1	在留外国人家族と地域をつなぐ多文化防災キャンプin西原町	教育学部：3名	在留外国人家族と地域のサポーター、大学生が連携し、多文化防災キャンプを行う。キャンプで得られた在留外国人家族の防災にかかわる現状や課題を踏まえ、在留外国人とともに生活する地域社会における防災の知識や災害時の適切な対応などをまとめた報告書を作成し、地域と共有することで、誰もが生活しやすい西原町を創りたい。
2	金武町並里集落動植物方言辞典作成プロジェクト	人文学部：7名	金武並里集落で動植物方言辞典を作成する。植物方言とその使い方についてもデータの収集と整理を実施し、動物語彙とあわせて辞典的記述を行い、製本する。地域の辞典を作成することは、地域性の再確認、多様性の確保となる。また、生態知の記録は、文化振興の活性化にも繋がることが期待できる。
3	Protect The Beach	理工学研究科：1名 理学部：4名	ビーチの砂のほとんどが生物由来であることやそれらの生き物を知ってもらい、持続可能な開発目標(SDGs)の03.地球環境を守ろう、04.質の高い教育をみんなに、14.海の豊かさを守ろうなどに関われるよう教育普及活動を行いたい。
4	PCT(Poop cleaning tool)改良プロジェクト~畜産業界で活躍するモーモーねえちゃんたちを救いたい~	農学部：3名	日本の畜産は、家畜飼養戸数や農家数でも減少の一途をたどっている。さらに、畜産部門において女性の農業参加者は少なく、その要因として畜産の重労働が大きな原因だと考えられ、女性の筋力では困難な作業も多い。そこで、女性の力でも効率よく作業を行えるような畜産器具の開発を目指し、女性が手に取りやすいデザインも取り入れながら視覚的にも楽しめるような器具の開発を目標とする。
5	うちなーいも魅力発信プロジェクト	農学研究科：2名 農学部：7名	甘薯の大部分は土産用食品の原料として利用され、栽培される甘薯の種類の単一化およびそれによる病害虫の発生が問題視されている。また、社会的な課題としての農業従事者の高齢化や担い手不足もある。本プロジェクトでは、土産用食品の原料として注目されている品種以外の魅力を発信していくことを目的に活動を行う。地域企業(繁多川堂)の協力をもとに新たな商品開発および新たな活用方法の考案、担い手や農業に関わる人の育成のために大学生や農業高校生への情報発信、小中学生へ食育を通じて農業についての興味促進を目指す。

6	<p>コーヒー粕を未来の新素材に再資源化プロジェクト</p>	<p>工学部：4名 琉大カガク院：1名</p>	<p>廃棄されているコーヒー粕の再資源化。 本申請で使用する技術は他の植物残渣へ適用可能、未利用植物資源の再資源化プロジェクトの一環ともいえる。本申請ではこれまで廃棄されているコーヒー粕を使った商品・製品(コースター)を製作。コーヒーが生長過程で吸収した CO₂ を固定化した状態で新素材へと資源化するため、脱炭素社会・資源循環型社会の形成へ貢献する。</p>
---	--------------------------------	-----------------------------	---